

日立市青少年育成推進会議家庭教育部会研修会

コロナ禍における子ども理解と コミュニケーション

茨城キリスト教大学文学部児童教育学科
齋藤 遼太郎

1

1

研修会の流れ

1. コロナ禍における保育の変化
2. コロナ禍における子ども理解
3. コロナ禍における子どもとのコミュニケーション

2

2

1. コロナ禍における保育の変化

(1) コロナ禍の保育等への影響

2020年2～5月	2020年7月～9月	2020年12月～2021年2月	2021年4月～6月	2021年7月～9月
第1波	第2波	第3波	第4波	第5波
休園・緊急事態宣言	夏休み短縮	新しい生活様式	施設利用制限	

ストレスが増加(いろいろ、不安、無気力)

3

2. コロナ禍における子ども理解

(1) ユニセフ『レポートカード16ー子どもたちに影響する世界: 先進国の子どもの幸福度を形作るものは何か』 2020年9月3日

先進国の子どもたちの精神的・身体的な健康と、学力・社会的スキルについてランキング

精神的幸福度、身体的健康、スキルの3つの側面から分析

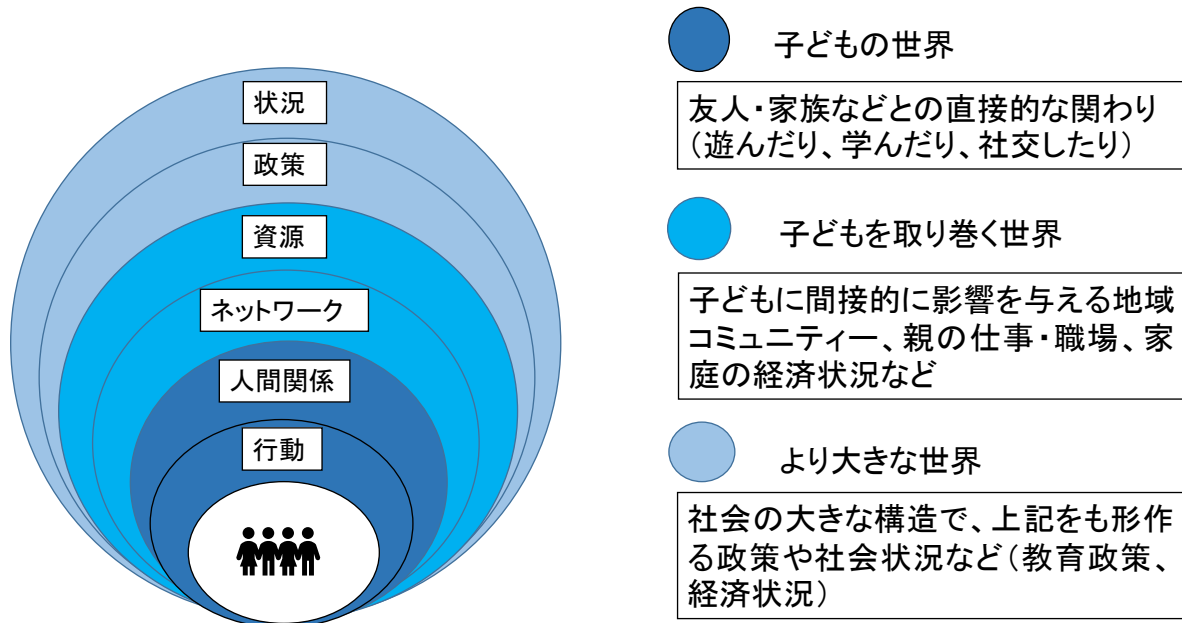


新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が子どもたちの幸福度にどう影響するかを考えるためにも使用可能

4

4

2. コロナ禍における子ども理解

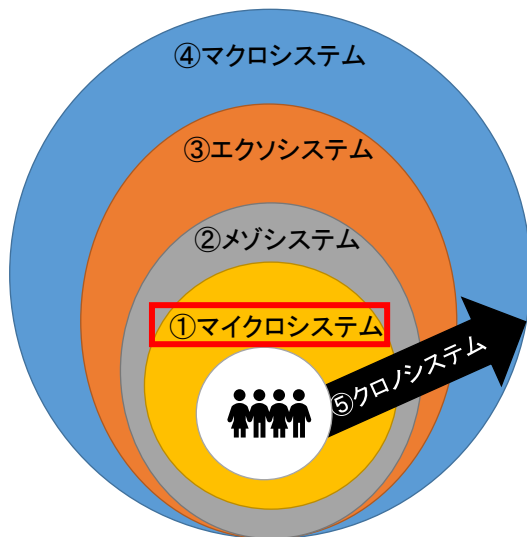


ユニセフ『レポートカード16-子どもたちに影響する世界:先進国の子どもの幸福度を形作るものは何か』⁵

5

2. コロナ禍における子ども理解

生態学的システム理論



① マイクロシステム

家や学校などの子どもが直接参加する場面で、親・友人・兄弟などとの交流。

<コロナ禍>

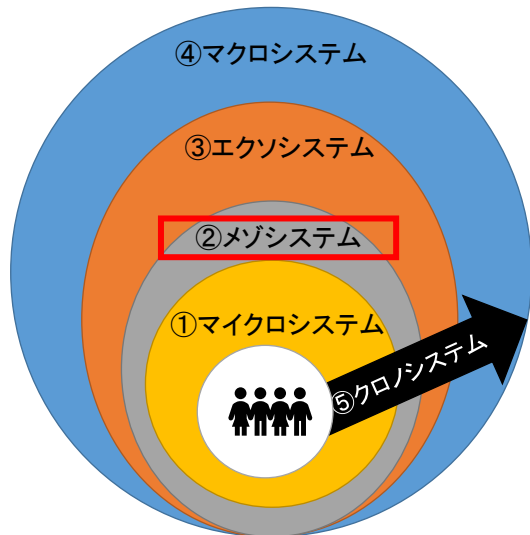
- ・コロナ感染拡大により、学校で子どもたちはマスクをつけたままの時間が増加
- ・「非言語」のコミュニケーションが絶たれ、友達や先生の顔の表情がわかりにくく、不安感を覚える子どもたちも多い
- ・他にも、コロナ対策のため、ペア・グループ活動も控え気味になり、話し合いを通し理解を深めたり、お互いから学び合う機会も以前より減少
- ・マスクは子どもが口の動きから学ぶ妨げに
- ・休校により友達作りに悩むことで、学校への帰属意識にも影響

6

6

2. コロナ禍における子ども理解

生態学的システム理論



②メゾシステム

2つ以上のマイクロシステムの交流が相互作用する環境。家庭と学校の連携など。

<コロナ禍>

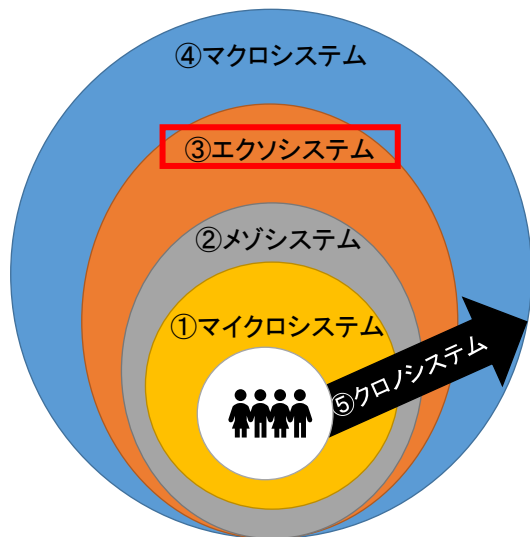
- ・コロナ対策の一環とし、保護者会や個人面談が中止
- ・子どもの学校での成長や様子を共有する機会、親と教員の連携機会が制限
- ・保護者が子どもと接する時に何に気を付けるればいいのか不安
- ・家庭での出来事によって、子どもの言動に変化が現れた際、学校の先生が家庭で何が起きているのかを把握するのに、以前より時間が必要

7

7

2. コロナ禍における子ども理解

生態学的システム理論



③エクソシステム

子どもが直接参加しない場面で、彼らの成長に間接的な影響を与える要因。親の職場や教員養成など、子どもが直接関わる親・先生などに影響を与える事柄。

<コロナ禍>

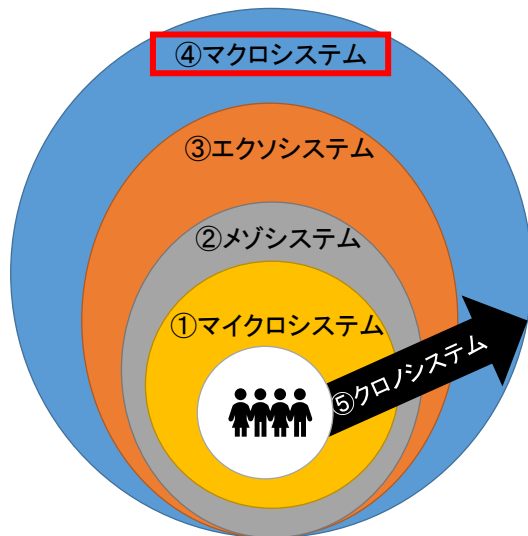
- ・保護者のテレワーク導入に伴い、コロナ以前より親子の関わり合いが増えた家庭
- ・不安定な経済状況の影響で収入が激減し子どもの生活が変容した家庭
- ・休校の混乱下、各自治体の動きにより、オンライン学習への取り組みに格差

8

8

2. コロナ禍における子ども理解

生態学的システム理論



④マクロシステム

社会的文化・価値や社会の経済状況など。

<コロナ禍>

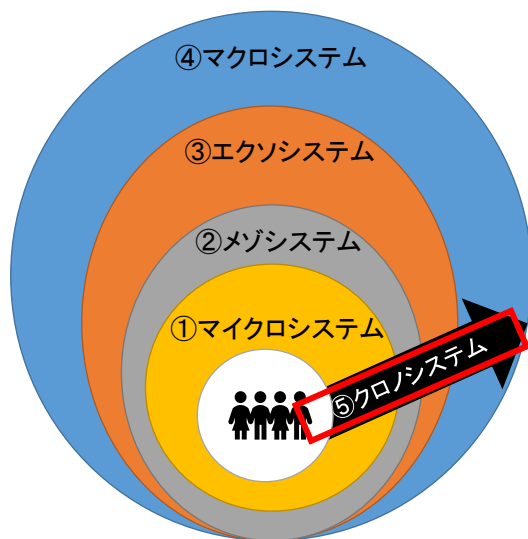
- ・コロナ禍に伴い、社会全体の教育に対する考え方や価値に変化
- ・デジタル教育への注目が高まり、教育の新しい可能性
- ・教育の公平への関心が高まり、社会全体で議論が増加

9

9

2. コロナ禍における子ども理解

生態学的システム理論



⑤クロノシステム

時間・時代の影響。子ども自身の時間軸における変化や社会での変化や出来事。

<コロナ禍>

- ・世界中の人々を脅かすコロナ感染拡大は歴史的出来事であり、クロノシステムでの大きな変化
- ・このパンデミックがもたらす子どもへの影響は子ども自身の時間軸により異なる
- ・幼児は、コロナの社会的影響を十分に理解せず、そこまで不安感に駆られていない
- ・幼児は、マスクを介したやり取りのため、脳や言語の発達に影響を受けている可能性
- ・児童は経済状況の悪化などを理解することができるため、悲観的な感情に陥っている子どもが多い

10

10

2. コロナ禍における子ども理解

ユニセフ『レポートカード16ー子どもたちに影響する世界：先進国の子どもの幸福度を形作るものは何か』

COVID-19は、ほぼ確実に、子どもの格差を広げることになる
⇒外での活動の減少や貧困の増加は身体的健康に、友達と会えず、外遊びができない、希望がもてないことなどは精神的幸福度に影響。学力への影響も不公平なものに。



みんなで支え合う、ストレスマネジメントが大切

11

11

2. コロナ禍における子ども理解

(2) 国立成育医療研究センター『コロナ禍におけるこどもたちの心とからだ』

○からだところの健康

からだの健康、こころの健康共に2020年5月から2021年3月に向けて、大幅に低下。

特に年齢が上がるにつれ、その低下率が上昇

○未就学児の心の健康

SDQ(子どもの強さと困難さアンケート)の結果、20%~40%の子が何かしらの配慮が必要

12

12

2. コロナ禍における子ども理解

(3) コロナ禍における保護者の子育てに対する困り感

項目	概要
①遊び場所	子どもたちの遊び場がなくなる
②休園の影響	保護者の通勤の困難、子どもの登園復帰時の様子
③時間の使い方	規則正しい生活習慣の崩れ、保護者の「自分の時間」
④ストレス	外出制限等のストレス、子どものストレスへの申し訳なさ
⑤感染の不安	自身が感染源となること、子どもの感染予防への意識
⑥機会の損失	発達段階における必要な教育的支援を受ける場面の喪失
⑦きょうだい関係	きょうだい間での対応の差
⑧先行き	先の見通しを持てるような情報提供の不足
⑨運動不足	健康状態や健全な発達への影響を危惧

能條歩ら. (2021). コロナ禍における乳幼児の保護者の「困り感」. 北海道教育大学紀要. 教育科学編, 72, 475-484

13

13

3. コロナ禍における子どもとのコミュニケーション

(1) 場面ごとの子どもとの関わり方

① かんしゃく、イライラ、暴力

- 癩癩が増えた(6歳女兒)
- とにかくイライラ・癩癩を起こしがちで、手に負えない。癩癩を起こすと手当たり次第何でも投げる(2歳女兒)

子どもは自分の気持ちを客観的にみることが難しく、イライラや不安に気づいたり、おさめたりする力も不十分

- ・危険なものは取り除き、安全を確保する
- ・イライラや不安な気持ちには共感する
- ・子どもの気持ちや考えを代わりに言葉にする
- ・より安全な方法・行動をとれるように一緒に考える

14

14

3. コロナ禍における子どもとのコミュニケーション

(1) 場面ごとの子どもとの関わり方

② 分離不安、甘え、赤ちゃんがえり

- 母親の姿が少しでも見えないと、不安で「ママどこー！」と呼んだり、以前は自分でできていたことも「できない！ママやって！」と言う(7歳男児)
- 親の後追いと愛情の確認頻度が上がった(2歳女児)

子どもにとって信頼できる大人は、不安を感じた時の心のよりどころ
子どもが安心できるような関わりが大切

- ・姿が見えなくなると不安がるときは安心できる方法を見つける
- ・いつも見守っていることを優しい口調で伝える
- ・子どもとの時間はメリハリをつけて、子どもが一人で過ごせたことをたくさん褒める

15

15

3. コロナ禍における子どもとのコミュニケーション

(1) 場面ごとの子どもとの関わり方

③ 遊びとコロナ

- 家族の絵を描いた時に黒い点々でコロナを描く(5歳男児)
- 遊びの中でコロナにかかった、と言う(3歳男児)

遊びの中で、コロナやその他に感じているストレスや葛藤を
表現することで、言葉にできない気持ちを表現

- ・遊びの中で表現することをやめさせない
- ・危険がないように見守る、安全に遊べるように環境を整える
- ・そのような遊びに没頭し、食事や睡眠、その他の日常生活が崩れてしまっているような時は、専門家につなぐ

16

16

3. コロナ禍における子どもとのコミュニケーション

(1) 場面ごとの子どもとの関わり方

④ 登園しぶり

- 登園を嫌がる(4歳女兒)

嫌がったり、行けないのには様々な理由がある
「分離不安」「コロナが不安」「疲れた」「体調が悪い」など

- ・無理に登園させない、周りが焦らない、プレッシャーをかけない
- ・回復するための休みは重要であることを理解する
- ・背景に身体の病気がないか、必要によっては病院を受診する
- ・子どもが気持ちを話せるように聴く
- ・気持ちを話し始めたら、聞き手に回り、話してくれたこと、話してくれた内容について、労いの言葉をかける

17

17

3. コロナ禍における子どもとのコミュニケーション

(2) 子どもの言葉の発達への支援

○言葉の発達に必要なこと

- ①音声を聞く
- ②口の動きをマネする
- ③相手の表情や視線などを読み取る

人間っぽさがある、視線、反応性

マスクによる言葉の発達への影響がないとは正直言えない

もちろんまだ、十分なデータが揃ってはいないが...

18

3. コロナ禍における子どもとのコミュニケーション

(2) 子どもの言葉の発達への支援

○保護者や保育者ができる支援

- ・マスク着用時は非言語コミュニケーション(大袈裟な感情表現、言葉をはっきり・ゆっくりなど)で補完
- ・知育アプリなど、画面上でのリアルなコミュニケーションツールを活用
例)音と一緒に動くイラスト、遊び感覚で思考力を育てることができるアプリなど
- ※ただし、モニター越しより、直接の方が効果は高い
- ・マスクを外し、表情を見せる時間を作ることも必要

19

19

3. コロナ禍における子どもとのコミュニケーション

(3) ストレスマネジメント

- ・刺激の排除:興奮する元になっているものを離す
例)勉強道具、食べ物、遊び道具、兄弟など一度部屋から出る、時間をとる
- ・身体の緊張を緩める:
例)深呼吸・腕をゆっくり回してほぐす等
肩をぎゅっと耳にちかづけてストンと落とす
緊張していると、声が大きくなったり、力が入りすぎたりする
- ・気分転換をする:眼・耳・身体等、別の部分に注目を移す
例)身体を動かす、好きな音楽を聞く、絵や写真・動画などを見る、安全なところに散歩に行く(広い、換気のよい空間)

20

20

4. おわりに

コロナ禍による子育てへの影響は、いまだ専門家によっても意見は様々です。しかし、子どもにとっては、その一時一時が発達のための大切な時間であり、かけがえのない時間です。

保護者や保育者の皆様におかれましては、子どもの変化に敏感になること、日頃からいつもより感情表現多めな関わりを行っていくことが重要であると考えられます。

また、一人で悩まず、子育て支援センターなどを活用し、地域全体で対応していく体制を整えることも必要でしょう。

21